

2025年大阪・関西万博推進本部

《第3回議事録》

■日 時：令和5年8月9日（水曜日）10時00分～10時45分

■場 所：大阪市役所P1階会議室

■出席者：出席者名簿 のとおり

（彌園万博推進局長）

皆様おはようございます。それでは、ただいまから2025年大阪・関西万博推進本部会議を開催させていただきます。お集まりいただきました皆様方、本日はお忙しいところどうもありがとうございます。また、オンラインの皆様もありがとうございます。本日の進行をさせていただきます万博推進局の彌園と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは次第に沿って会議を進めさせていただきたいと思ひますけれども、まず、本日の出席者のご紹介ですけれども、お手元の名簿に代えさせていただきたいと思ひますけれども、本日は2025年日本国際博覧会協会の高科副事務総長にご出席いただいておりますのでご紹介させていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

会議の開催にあたりまして、吉村本部長より一言ご挨拶を頂戴したいと思ひますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

（知事）

皆さんおはようございます。本日はお忙しい中、博覧会協会の高科副事務総長に会議に出席いただきましてありがとうございます。この会議を開催した趣旨ですけれども、万博がいよいよ2年に迫るといふ中で、国それから協会、大阪府・市、協力して成功させていく必要があります。その中で、とりわけ一部報道にもありますけれども、海外パビリオンであったり、様々な課題が生じているのも事実だと思ひます。その中で、やはり国、協会、大阪府・市が協力してこの万博を成功させるために、我々、大阪府・市としてできること、これはどんなことでも尽くしていくという思ひで今日の会議を開催させていただきました。

現在の状況について、若干見えにくいところもあり、そのあたり高科副事務総長に少しお話をいただきたいと思いますし、地元でできることはどんどん積極的にやっていく必要があります。

とりわけ、工事関係、これは大阪府・市、協力して、大阪市の皆さんの力も非常に重要になってくると思ひますけれども、建設の工事の進め方、また、実際に工事が遅れるということは裏を返せば一時に集中しやすくなるということも意味をしています。じゃあ夢洲の会場で集中する工事をいかにしてスムーズに進めていくのか、お尻は2025年4月に決まっているわけですから、それに合わせてどういった進捗で進めていくのか、我々ができることを尽くしていくということを皆さんと一緒に進めたいと思ひます。そして素晴らしい万博を地元大阪でやるわけですから、未来を作るような万博を、胸を張って作り上げ、次世代につなげてい

く素晴らしい万博をやっていきたいと思いますので、皆さんよろしくお願い申し上げます。

(彌園万博推進局長)

知事、ありがとうございます。それでは、早速ではございますけれども高科副事務総長より2025年日本万国博覧会協会の取組状況についてご説明をお願いいたします。

(高科副事務総長)

皆さんおはようございます。博覧会協会高科でございます。本日は貴重な時間をありがとうございます。それでは私のほうから最近の取組状況について簡単にご説明させていただきます。

2ページです。博覧会協会は、現在、約680名の体制となりました。大阪府・大阪市におかれましては多数の職員を協会へ派遣くださりありがとうございます。また、6月の理事会で「催事局」の新設をご承認いただき、発足しました。今後は催事の準備にも力を入れたいと思います。

情報発信に関してですが、博覧会協会としては、情報発信の強化を図ることとしており、一昨日、公表させていただきました。具体的には、これまで記者会見を3か月に1回行っておりましたが、今後は、石毛事務総長による月一回の定例記者会見、副事務総長による毎週一回のブリーフィングまたは懇談、プレスリリースを毎日配信する、こうしたことについて、今月から取り組むこととしております。引き続き大阪・関西万博の成功に向けて、ご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

3ページ目は、起工式ですけれども、4月に岸田総理にもご臨席いただき、起工式を行いました。起工式を皮切りに、夢洲での建築工事が本格的に始まりました。

4ページになりますけれども、現在の一番の課題は海外パビリオンの整備と、開幕まで2年を切って本格化させる必要がある機運醸成です。前者については経産省と協力して引き続き進めてまいります。セルフビルド方式をとっているタイプAの公式参加国パビリオンの建設に関して、博覧会協会では、今までも参加国に対し、日本国内の建設市場や建設会社の現状等の説明を行うとともに、参加国からの質問を受け付ける場としてオンライン説明会を6月と7月に実施してまいりました。また、6月20日の博覧会国際事務局(BIE)の年次総会では、石毛総長から参加国に対して日本の建設市場の厳しさに改めて言及しつつ、早急の対応を要請するなどの対応を行ってきたところです。

一方で、建設業界に対しても、情報提供を進めてまいりました。今年4月20日は大阪、28日は東京の開催に続きまして、8月7日には、建設事業者や展示内装事業者等の皆様に最新情報を提供し、パビリオン建設について関心を高めて頂くことを目的とした説明会を開催し、122社、201名の参加を得ることが出来ました。こうした対参加国、対事業者の取組によって、タイプAパビリオンの建設促進に努めてまいります。岡田万博担当大臣からも吉村知事と横山市長に依頼があったと伺っておりますが、大阪府・市におかれましても、地元の建設事業者に対してタイプAパビリオンの建設に協力いただけるよう呼び掛けていただけるとありがたいと存じます。

これに関連しまして、この資料の左下のことだと思いますけども、昨晚からの報道で民間パビリオン等でも施工事業者が決まっていなくていくつもあるということが出ておりましたが、これにつきまして個別出展者の契約に関するお話について、協会からお答えすることはなかなか難しいのでございますけれども、そこは個社にご確認いただきたいところではありますが、協会が各社と定期的な打ち合わせをする中で、建設事業者は決定もしくはそれに近い状態、それに近い状態というのは契約締結に向けた協議を計画通り進めている、そういう状態であることをすべての出展者について確認しているところでございます。

次のページになりますが、株式会社日本貿易保険からも8月2日にプレスリリースのあった「万博貿易保険」について、先ほどご説明した説明会で紹介があったところです。「万博貿易保険」は、参加国側から建設工事の代金回収が難しくなった場合に、株式会社日本貿易保険から代わりに代金が支払われる仕組みです。今回開発された商品では、タイプAパビリオン建設にかかる保険料が従前の3分の1になるもので、中小を含む事業者がタイプAパビリオンに関与するための追い風になることが期待されます。

また、「2024年問題」について、協会が政府に労働時間制限の緩和を求めたといった報道が出ておりましたが、正しくは海外パビリオンなどの準備を進めていくにあたって、協会が政府とともに様々な課題を洗い出す過程で、その一つとして「2024年問題」も話に上がったというものでして、また、今後の政府での取り扱いについて、協会から何ら申し上げられる段階にはないというのが実状です。

博覧会協会といたしましては、各国の希望する出展が実現できるよう、政府、関係者と一丸となって参加国と施工事業者の双方に対し、最大限サポートしてまいります。

それから、会場建設費につきましても、一部報道が出ているところでございますけれども、博覧会協会といたしましては、1850億円に収めるべく最大限の努力をしているところです。一方で昨今の資材価格や労務費が高くなっていることも踏まえまして、協会内においてどのように、1850億円に収めていくのか、そうした精査を行っている段階でございます。

次の6ページへまいりますけども、機運醸成に関連しまして、機運醸成委員会の設置についてです。全国的な機運醸成の司令塔として、今年4月に「機運醸成委員会」を設置いたしました。松本正義関経連会長を委員長にお迎えして、機運醸成を加速化してまいりたいと思っております。6月に第1回の総会が開催されまして「機運醸成行動計画」を策定いたしました。

7ページになりますけども、機運醸成の既存の主なツールとして、ナンバープレート、テーマソング「この地球（ホシ）の続きを」、このテーマソングにつきまして盆踊りバージョンもコブクロさんに作成いただき、マレーシアでも使っていただきました。また、公式キャラクター「ミャクミャク」やロゴのポスター、デジタルサイネージ、万博会場のフライスルー動画等も広く提供しております。また造幣局が作成する記念コインの申し込みも始まったところです。

8ページですけども、「自治体や経済団体等との連携」につきましても、これまで全国各県知事の皆さまへの協力依頼を進めてまいりました。また、修学旅行や校外学習の行き先として、万博を選んでいただけるよう、校長会などでも呼び掛けております。今後も、前売り入

場券発売開始時期に向け、自治体や経済団体等と連携したプロモーションを実施してまいります。

9 ページですが、「万博プラス観光」の推進についてです。万博に来場される 2,820 万人、とりわけ 350 万人を見込んでいる外国人来場者を万博会場だけではなく、全国各地にも誘客することをめざしています。万博のテーマに親和性があり、万博体験を深掘りする旅行商品が各地域で作られつつあり当協会が構築する「万博プラス全国観光ポータルサイト」で、旅行代理店と連携して、こうした旅行商品の情報を発信、販売してまいります。

10 ページは「海外PR」についてですが、海外PRにつきましては、日本政府観光局 JNTO、などと連携して海外での日本関連イベント、旅行博などに出展しPRを行ってまいります。

11 ページですが、6 月末にチケット価格を発表いたしました。過去の万博の来場者数を分析しますと、学校の夏休み時期から、閉幕日が近づくにつれ、入場者が増加する傾向がございます。そこで、来場者数の平準化を図るために、開幕券、前期券を設定いたしました。リピーターの皆さんには、夏パスと通期パスも設定いたしました。

愛知万博では、前売りで約 6 割の入場チケットが販売されました。大阪・関西万博で 2,820 万人にご来場いただくとすると、通期券をお買い求めいただく方が相当数いることを考慮しても、前売券のご購入のお願い、販売促進を積極的に進めていくことが必要であると考えています。

博覧会協会としては、なるべく多くの前売り券を購入いただきたいと考えており、経済界に 700 万枚ご購入いただけるとありがたいと考えており、過日お願いしたところです。大阪府・市をはじめ地方自治体におかれましても、前売り券の購入にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、大阪・関西万博において、初めての試みとなる『会場へのペット同伴』の可能性について検討を行うために、産学の有識者による「ペット同伴検討委員会」を大阪府・市とともに実施しています。現在、報告書を取りまとめている段階であり、今後関係者と協議をした上で、ペット同伴の可否等も含めた方針を決めてまいりたいと考えております。簡単でございますが私からは以上です。

(彌園万博推進局長)

高科副事務総長、ありがとうございます。それでは、これまでのご説明に関しまして、何かご質問等がございましたらお願いしたいというふうに思います。

知事、お願いします。

(知事)

高科副事務総長、ありがとうございます。日頃の業務本当にお疲れさまです。

今、ご説明あった中で、特に気にかけているのが建設です。ここについては、万博は 2025 年 4 月に開催するということに向けて遅れさせることはない。これは国も府・市も協会も統一して関係者もそこに向かって進んでいます。そうすると、建設というのはどうしてもスケ

ジュールが必要です。実際問題、物理的なものなので。そう考えた時に、先ほど副事務総長から海外パビリオン以外のところについては一定、期間内の想定の中で進んでいるということですが、海外パビリオンで関西の地元の建設事業者、中小の建設事業者を想定されていると思いますけど、そういったところに呼びかけしてもらいたいということで、我々も既に実務的には呼びかけていますし、市長とも協力しながら呼びかけて、皆で成功実現に向けてやっていきたいと思っています。

その中で一つ質問なんですけど、一部報道でも出ていますが、海外のパビリオン建設の説明会でもあったと聞いております、56ある海外のタイプAの進捗状況ですね、どの国はどうというのは聞かすつもりはないんですけど、大まかな進捗状況で色合いはすごく違うと思うんですけど、どんな状況になっているかというのはいかがか。

(高科副事務総長)

難しい質問なのですが、国ごとにより事情が違いますし、かつ、日々交渉が進んでいる中で、変化もある中で、なかなか一概に、色分けするのが難しいところでありまして、そこはご理解いただきたいと思うのですけれども、その中で、今後、地元の事業者のご紹介をいただいたりする中で、どこまで必要な情報を共有できるかといったことについては、また色々個別にご相談させていただきながら進めていければと思います。

(知事)

建設関係で、今、協会でも躯体を作って提案するっていうのもあるんじゃないかっていうことを聞いているんですけども、それも最終の期限というのが物理的に考えるとあると思うんですけど、そういうスケジュール管理みたいなのはきちんとできているんですか。ひとつひとつこの国がどうかというつもりはないんですけど、最後間に合いませんでしたってならないようにしないとイケない。それが進んでくると例えばタイプAの国でも、間に合わなかったらもうちょっと撤退しますっていうのは可能性としてはあり得るので。

であるなら、先手、先手で、そういったなかなか進み具合がどうも進まないなという国については、ある程度そういった準備をしていくことが必要で、その準備を日本でするにしてもスケジュール感が必要になると思います。そこはきっちりと対応できているのですか。

(高科副事務総長)

作業をする中での目処みたいなものを考えながら、色々な議論をしていますが、他方で、国によってさらにもっと簡単なものにすればどうなんだとか、やり方によってまた時期も動くものですから、そういった中で個別に対応していかないと、ある期限になったらもうダメなので、こっちに流れてくださいみたいな形にはなかなか難しいと思っています。その点、我々としても非常に丁寧にやっていかないとイケないと考えています。歯切れが悪くて申し訳ないのですが。

(知事)

関西の建設事業者、大手については既に呼びかけているところですが、地元の中小的建設業者や設備事業者にも、これから、我々もそうだし大阪府・市で普段から色々な事業をしていますので、実務的にもさらに呼びかけていこうと思っているんですが、呼びかけたときに博覧会協会の受けですよね、広く呼びかけていくことになると思うんですけど、受けの体制と来た時にうまくマッチングしないと、せっかく地元の企業が協力しようと思っても相手にされない、なしのつぶて状態になるのはよくないと思いますし、そういうことはないと思いますが、受け手の方をしっかりとお願いしたいなと思うんですけど、そのあたりはどうですか。

(高科副事務総長)

もちろんそういうことがないように体制は整えますし、知事からもご指摘を受けましたので、改めてそういうことのないように協会の中も周知してまいります。

(知事)

地元の建設事業者、それから設備事業者に呼びかけるなど 29 の業種と聞いているのですが、そこは実務的にすり合わせたところで呼びかける。タイプAの海外パビリオン、これはもちろん大手がやる状況なんでしょうけど、大手だけでは工事は成り立たないと思うので、呼びかけの趣旨をもう少し具体的に教えていただきたい。

(高科副事務総長)

おっしゃるとおり大手だけでは成り立たないところがあるので、色々な方々にできるだけ関わっていただきながら、一緒にやれるとうまくやれる方法が出てくるのではないかと思います、呼びかけをお願いしたいと思っています。

(彌園万博推進局長)

他に何かございますでしょうか。

無いようですので、次に大阪府・市の取組状況につきまして、ご説明を進めていきたいというふうに思います。

まず初めに、建設業界への働きかけ及び建築関係手続きの迅速化、建設業許可手続きの短縮につきまして、大阪府谷口都市整備部長よりご説明をお願いいたします。

(谷口都市整備部長)

それでは、資料に従いまして説明させていただきたいと思っております。

資料の3ページをご覧ください。先ほど知事からもありましたけれども、パビリオン建設に関しましては、建設業界等から施工を担う中小建設事業者や設備業者の確保が課題との指摘がございます。これを受けまして、建設業の関係団体に対しまして、大阪府・市で協力要請の文書、資料中にある右の文書でございますが、これを発出するとともに、8月4日、それから8日につきまして、森岡副知事をトップとして各団体を訪問し、協力を要請したとこ

ろでございます。さらに、万博協会が開催いたしました建設業者向けの説明会、これに大阪府・市で参加いたしまして、建設業許可をはじめとした関係手続きの迅速化に関する説明も行ったところでございます。今後、関西圏の各府県にも協力を要請するなど、引き続き、建設業界への働きかけを行ってまいりたいと考えております。

続きまして、資料の6ページをご覧ください。6ページには建設業許可の手続きの短縮というもので作ってございます。海外施工者がパビリオンを建設するにあたりましては、新たに大阪府知事の建設業許可が必要となります。この手続きに関しまして、専任の人員を配置して、府の審査体制の強化を図るということと、必要な手続きを簡素化することによりまして、通常30日かかる、そういう府の審査期間を最短で2週間に短縮することとしております。また、許可要件のうち、通常、府知事の許可申請に先立って、国土交通大臣の認定が必要なものにつきましても、書類の簡素化等を国土交通省に要請するとともに、府としても、大臣認定後に行っていたこの審査を国の認定審査と並行して行うことによりまして、迅速に許可できるように取り組んでまいります。

引き続き、海外施工者が建設業許可を迅速に取得できるよう、早い段階から相談に応じるとともに審査体制の強化に取り組んでまいりたいと思います。以上でございます。

(彌園万博推進局長)

谷口部長ありがとうございました。

説明を続けさせていただきたいと思っておりますけれども、次に、建築関係手続きの迅速化、建築基準法に基づく手続きの期間短縮化などにつきまして、大阪市寺本計画調整局長よりご説明をお願いいたします。

(寺本計画調整局長)

資料8ページでございます。本市では万博におけますパビリオンを建設する際の仮設建築物許可及び建築確認の手続きにつきまして、既に期間短縮を図るための措置を講じてきておるところでございます。主な取組といたしましては8ページの3点でございます。

まず1つ目としまして、万博の仮設建築物許可の担当職員を令和4年4月から、2名から4名に増員しまして、体制を強化しておるところでございます。今後、申請が集中した場合にも、適切に対応できるよう、他の担当職員を増員するなど、状況に応じてさらに体制強化を図ることとしております。

2つ目でございます。設計者等が円滑に建築計画の作成手続きが進められるよう、万博の仮設建築物に係る許可基準及び手続き要領を作成しまして、既にホームページで公表しておるところでございます。

3つ目といたしまして、仮設建築物の許可に必要な建築審査会の同意につきまして、建築審査会と協議をいたしまして、一定要件を満たすものにつきましても、個別に審査することなく、本市からの報告をもって同意したものとして取り扱って、審査期間を短縮しておるところでございます。また、建築確認検査機関に対しまして、本市から、市が仮設建築物許可の審査等を行っている期間中に、建築確認の事前協議、予備審査等を行うことを要請し

まして、建築確認にかかる期間を短縮しておるところでございます。

次の9ページがそれを図示したものでございます。資料の左側が通常の場合でございます。資料右側が先ほどご説明をいたしました取組によって期間短縮された後の手続きのフローと処理期間を記載しております。仮設建築物許可につきましては、通常3ヶ月を要するところを約1.5ヶ月から約2ヶ月で処理できるように期間短縮を図っております。また、建築確認の審査期間につきましても図の一番右側でございますが、通常35日を要するところを約10日で処理できるよう、期間短縮が図られておるところでございます。

続きまして10ページでございます。こちらは、パビリオンの構造部材に海外材料等を使用する場合の取り扱いについてでございます。左側に海外材料等の構造部材への使用が可能か判断するためのフローチャートでございます。左側中ほど丸3の記載の通り各国の規格に適合するなど、構造計算に必要な強度や品質が明らかなものにつきましては、原則として使用可能となる取り扱いをしておるところでございます。

以上の取組につきましては、協会が主催されます各国への説明会に本市も参加をいたしまして、説明をしてきたところでございます。引き続き、手続きが円滑に進みますよう、協会等とも十分に情報共有しながら、これからも取組を進めてまいりたいと考えております。説明は以上でございます。

(彌園万博推進局長)

寺本局長ありがとうございました。

次に、円滑な交通の確保、工事車両の通行円滑化につきまして、大阪市寺川建設局長にご説明をお願いいたします。

(寺川建設局長)

円滑な交通の確保の取組としましては、ページ右下の12ページ、13ページをご覧ください。万博の会場となります夢洲への道路交通アクセスなんですけれども、資料の真ん中の右側の図面見ていただきますように、舞洲を通過して北から入ってくるルートと、咲洲を経由して入ってくる南側のルート、この2ルートとなっております。

このルートからの工事車両流入につきまして、工事車両運行管理システムというものを今年度4月から既に稼働させていただいております。事前の調整に基づきまして、流出入する工事車両につきまして、時間帯、ルートごとに車両の台数配分をしまして、それを事前にナンバープレートなどを登録していただきます。実際にこのルート上には赤丸、黒丸でお示しをしておりますが、AIカメラを設置してございまして、それによって、そのナンバープレートを認識する形で、運行状況について管理をするというシステムを稼働させていただいております。

また、物理的には工事車両の主ルートとなります北ルートについては、阪神高速から直接流出入するルートになりますが、この交通容量を拡大するために、此花大橋、夢舞大橋の2橋につきましては車道を2車、2車の4車線から、3車、3車の6車線に増設をいたしております。

また、北ルートの舞洲内の東交差点につきましても、右折左折をそれぞれ2車線化する整備をもう既に実施してございます。

また、今後、さらに追加しとしましては、舞洲東交差点そのものの信号の改良を予定してございます。

また、万博開催に向けて、建設を現在進めております夢洲内の夢洲北高架橋については、工事の少し前倒しを予定してございまして、工事車両をテールヘビーと言われている、2024年度の後半に活用いただけるように工事の調整をしてございます。

また、阪神高速道路におきましては、北ルートを高速道路からの流入部分の改良工事を実施していただくことになってございます。

また、夢洲内の港湾物流のコンテナ車両のターミナルへの入場の際して、路上待機が発生している時がありますが、これについても、今、240台分の車両待機場の整備が既に実施されており、さらに260台分の追加整備を予定してございます。

万博整備につきましては、後半にかなりテールヘビーの状態が予想されてございます。引き続き、特にタイプAパビリオンなどの工事工程等につきまして、最新の情報を入手するとともに、それに基づいた工事車両の台数想定などを逐次見直して、渋滞緩和が必要な対策などを検討することで、円滑な交通の確保に取り組んでまいりたいと思います。以上でございます。

(彌園万博推進局長)

寺川局長ありがとうございました。それでは、最後に夢洲の物流交通対策につきまして、丸山大阪港湾局長よりご説明をお願いいたします。

(丸山大阪港湾局長)

資料は14ページでございます。夢洲の物流交通対策につきましては、万博の関連車両の工事車両も含めまして、それから物流の関連車両の円滑な交通確保ということで、この図にございます5つの対策を計画してございまして、もう既に実施済みの計画・対策もございます。

まず、1つ目のCONPASでございます。これはITを活用しコンテナ車両がゲートに入ってくる時間を事前に予約するという形でゲート処理時間を短縮しようというものでございまして、これについてはもう既に試験運用を5回実施しており、今年度中には実施できるということでございますので、来年度中には工事車両が集中するような時期にも稼働しているような状況にございます。

それから、丸2番の車両待機場については、先ほど寺川局長から説明があった通りでございます。

それから、丸3番のゲートの時間延長につきましては、これまでも実施の実績がございまして、工事期間中につきましても実施できるように今関係者と調整を進めようとしているところでございます。

丸4番の荷捌き地の拡張、これにつきましても国交省の直轄事業で整備を進められており、今年度中には完成するというところでございます。この荷捌き地が広がることによりまして、

コンテナ車両もこの中に引き込むことができるということで道路上には並ばないという状況ができるんじゃないかと思っております。

それから、丸5番の咲洲へのシフトでございますけれども、コンテナ車両が集中するっていうのは、空のコンテナを夢洲へ返しに来るという車が昼間に多くございますので、その車両の対策ということでございます。令和3年には夜間に返すということで一度社会実験を行い、昨年には海上運搬で昼間にやるという社会実験を実施してございます。これは工事期間中、万博期間中も含めまして実施できるように現在関係者と調整しているところで、これらによって円滑な交通を実施したいと考えているところでございます。以上でございます。

(彌園万博推進局長)

丸山局長、ありがとうございます。

府・市の取組状況の説明は以上になりますけれども、これまでの説明に関しまして、何かご質問等ございましたらよろしくお願いたします。大丈夫でしょうか。

山口副知事、お願いします。

(山口副知事)

建設業界回ってもらっているんですけれども、反応はどんな感じなんですかね。それと、これでほぼ大阪の中小も含めた建設業界とか設備協会というのは網羅されているのか。そういうところの働きかけをもうちょっと行かないといけないのか、そここのところの説明をもうちょっとお願いします。

(森岡副知事)

先週、今週と中小の建設業者さんと設備事業者さんの方を回らせていただきました。反応としましては、協会さんの方で説明会をやっていたいていますし、確か7日にもやっていたかと思うんですけど、そういった場をこれからもできればやっていただきたいなど。やっぱり情報がちょっと不十分なところがあるかなと。わからないところが多いので。というのは一番の共通したご反応だったかと思えます。あと、協会としましては、大体これである程度網羅しているかな、設備サブコンさんにしましても、非常に中小のゼネコンさんにしても、ある程度はこれで網羅しているんじゃないかなと考えております。

(彌園万博推進局長) :

よろしいですか。

本日の議題については以上になります。これまでの協会の取組状況、府・市の取組状況を踏まえまして、最後に高科副事務長よりコメントを頂戴したいと思います。

(高科副事務総長)

今日、大阪府・市の会議に初めて出させていただいて、万博はナショナルプロジェクトである一方で、改めて地元の多くの方々に支えられているということ、当たり前なんですけど

も、認識することができました。ありがとうございます。今後もまた引き続き色々な形で、色々なレベルで協力しながら進めていきたいと思えます。また、その過程で、先ほど協会から情報発信の強化をするというお話をさせていただきましたけれども、それに加えて、関係者の情報共有ということについても、知事、市長にも御指導いただきながら、できるだけ円滑にできるように我々も考えていきたいと思えます。万博の成功に向けて、大阪府・市とも、引き続き、協力して進めていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。本日は、ありがとうございます。

(彌園万博推進局長)

ありがとうございます。次に本部長、本部長代行からのコメントを頂戴したいと思えます。まず、横山本部長代行からお願ひします。

(市長)

高科副事務総長におかれましては、本日ご出席いただきましてありがとうございます。また、たくさん取組を進めていただいていることに感謝申し上げます。私も色々な他の事業者さんからもご意見をいただき、とある国と優先交渉権とか進めていた話が進んでいたのに、何か後ろに戻ったり、前に進まなかったり、非常に不安な時期を過ごしているというお声をいただいています。色々な情報共有、逆に共有やネットワークつなげることで、すごくスムーズになる可能性もやっぱり感じております。ぜひ引き続きお力をいただけたらと思えます。

府・市の取組も各部局よりご説明いただきまして、大阪市の取組に関してはこの資料の8ページから16ページでそれぞれご説明いただいたかと思えます。

仮設建築物の許可申請や、円滑な交通の確保につきましては、今後、申請件数や車両台数も集中することが想定されます。迅速確実に手続きが進められるよう、まず計画調整局においても準備、体制を万全に期していただきたいと思えます。

工事車両の円滑な交通の確保と物流交通対策については非常に重要なところかと思えます。建設局、港湾局においても、しっかりと取り組んでいただきたいと思えますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

11月30日には万博開幕500日前を迎えまして、PRの重点期を秋には迎えます。万博の機運醸成を図ること、これもより一層加速させていただきますようよろしくお願ひします。

市長就任以降、本当にたくさんの海外の方とお話する機会をいただくんですが、いずれの国の方も非常に前向きで、万博をチャンスととらえ、積極的に関わっていただくことを伺っておりますので、ぜひ、こういった方々とともに前に進むように、また、先日シカゴも行ってまいりまして、本当に多くの感触をいただいております。手続きがしっかり前に進むように、大阪市としても全力を挙げていきたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

本日で開幕まで613日となります。引き続き府・市、協会と経済界、一丸となって取り組んでいきたいと思えますし、70年万博もそうですが、これは50年語り継がれるイベントになると思えます。今が大変なのはもちろんわかっているんですが、部局や組織の垣根を越え

て一丸となって、必ず成功に導きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
今日はありがとうございました。

(彌園万博推進局長)

ありがとうございました。それでは吉村本部長よろしくお願いいたします。

(知事)

今、準備期間、いよいよ建設にも入ってきて、かなり重要な時期に入ってきていると思います。そしてまた万博の開催まで、非常にある意味大変な時期に入ってくる。ここをいかに府・市、そして経済界、国、協会と協力して素晴らしいものを作り上げていくのか、ここが重要だと思っております。ぜひここにいる皆さんの協力と万博を成功させるんだという、この大きな目標のもとに、一致団結して進めていきたいと思うのでよろしくお願いいたします。

市長からもコメントはありましたけれども、やはり今、私自身が海外パビリオンのタイプAをものすごく心配しているんですけど、だからこそ発信していますが、あわせて、これは恐らく工事がかなり集中してくることになると思うんです。つまり、中盤、後半にかけて工事車両も含めてかなり夢洲が集中する。その時に、それを十分想定して、常に対策とってもらっていますが、このコンテナ車両対策も含めて、十分な予測とともに対策をさらに柔軟に考えていくということをお願いしたいと思っております。

工事が最初から予定通りに進んでいけば、工事の密度っていうのは徐々に上がっていくことになるんですけど、逆にそれが後ろに来るってことは、山の高さは一緒なわけですから、後ろに山が大きくなってくる。そうするとここに集中してきますから、そうすると、しかも夢洲は人工島ですので、そういった工事車両の集中の懸念というのはあると思っておりますけど、その対策で今とれるところしっかり柔軟に、この状況に合わせて、時間は巻き戻しできませんので、これからできることをしっかりと考えていくということでもよろしくお願いいたします。

博覧会協会からも、地元の建設事業者、設備事業者にそういったところにも声掛けをしてもらいたいという話で、我々もやっていますけど、さらに力を入れてやっている。ここは森岡副知事もやってくれています。大阪府・市連携して、ぜひやってもらいたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今後、様々な情報の発信というのは非常に重要になると思います。課題もあるんですけど、課題をずっとあまり外に出さないと、課題がどんどん大きくなっていくので、良い情報も悪い情報も出していくっていうのは大事なことかなと。これは市政、府政運営でも常に心掛けてきたことでもあります。批判はあっても、批判があれば改善に向かっていきますので、できるだけこの進捗も含めてぜひ情報共有をお願いしたいと思っておりますし、定期的に、これからさらに副事務総長は週1回、事務総長は月1回、定期的に会見を行っていただけるということなので、正確な情報発信をしながら、また個別に必要な情報は共有もしながら対策をとっていくということが成功に近づいてくると思っていますので、これからも協力関係のもとで進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

2025年の万博はまさに未来社会をつくる万博です。ここにめがけて色々な人が、今ここに

チャレンジをして、素晴らしい万博を作ろうと手を挙げてくれていますので、国、協会、大阪府・市、協力して万博を成功に導いていきたいと思しますので皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

(彌園万博推進局長) :

ありがとうございました。

引き続き、大阪・関西万博の成功に向けまして、博覧会協会、大阪府・市が一体となって、国や経済界とともにしっかりと取り組んでまいりたいと考えておりますので、各部局の皆様のご引き続きのご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして、本日の2025年大阪・関西万博推進本部第3回会議を閉会したいと思います。本日はどうもありがとうございました。